

石川県および金沢医科大学に おける女性医師に対する支援 の状況・腎臓内科医の夫と 呼吸器内科医の私

金沢医科大学

呼吸器内科学¹・腎臓内科学²

藤本 由貴¹、藤本 圭司²、梶 博久¹、横山 仁²

1. 金沢医科大学における女性医師支援の状況

学生

女性医師支援

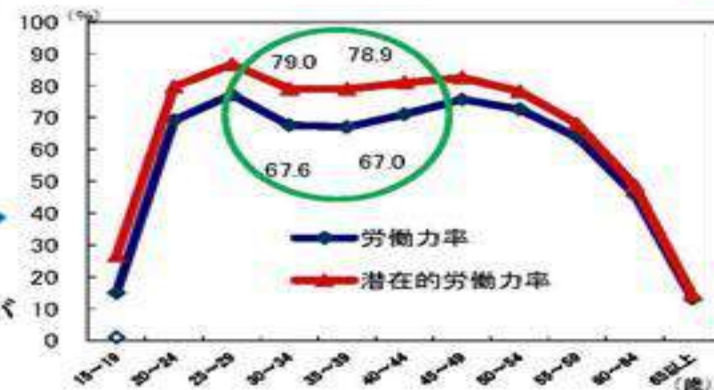
2. 石川県女性医師支援について

3. 腎臓内科医の夫を持つ視点

直面する課題と抜本的解決に向けた具体的方策

課題

- 少子化と生産年齢人口の減少が進む中で、女性の活躍の推進は喫緊の課題。
- 女性の労働力率は、第1子出産を機に6割の女性が離職するなど、子育て期に当たる30歳代で低下する「M字カーブ」を描くが、就業希望者を加えた潜在的労働力率は高い。
- 女性が妊娠・出産・子育てをきっかけに勤務先を辞める理由は、就業時間の長さや職場の両立支援制度の不十分さ、子どもの預け先や家族の協力が得られないなど仕事と家庭の両立が困難であることが多い。
- 指導的地位に占める女性の割合を2020年までに30%程度とする政府目標にもかかわらず、企業等の役員、管理職における女性の割合は依然として低く、その理由として、必要な知識や経験等を有する女性がいなかったことや管理職になるまでに退職することを挙げる企業が多い。
- 女性自身のキャリア・アップ支援とともに、企業における女性の活躍促進を後押ししていくことが不可欠。



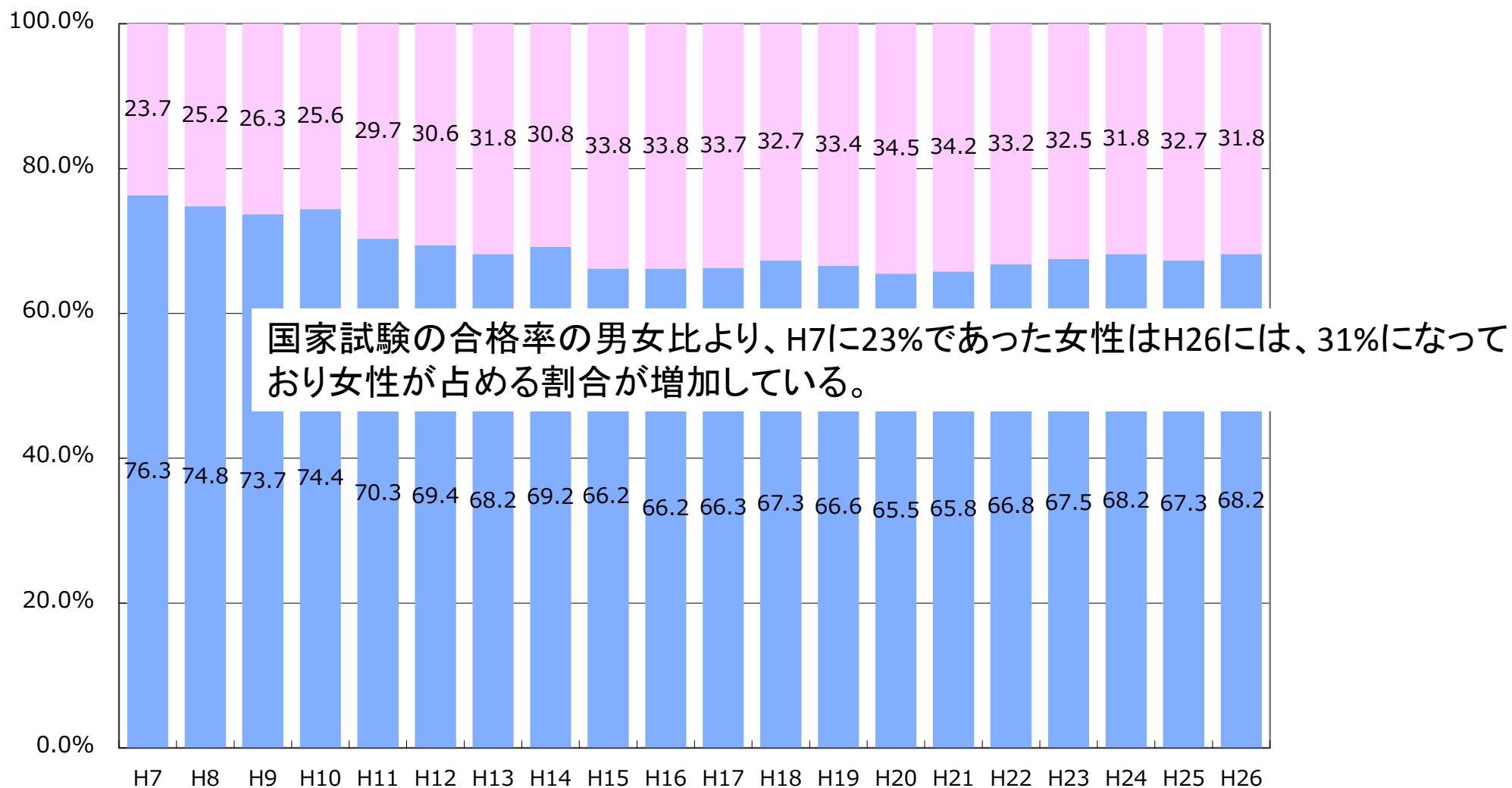
3本柱で
総合的に施策
を展開

1 女性の活躍促進や仕事と子育て等の両立支援に取り組む企業に対するインセンティブ付与等

2 女性のライフ・ステージに対応した活躍支援

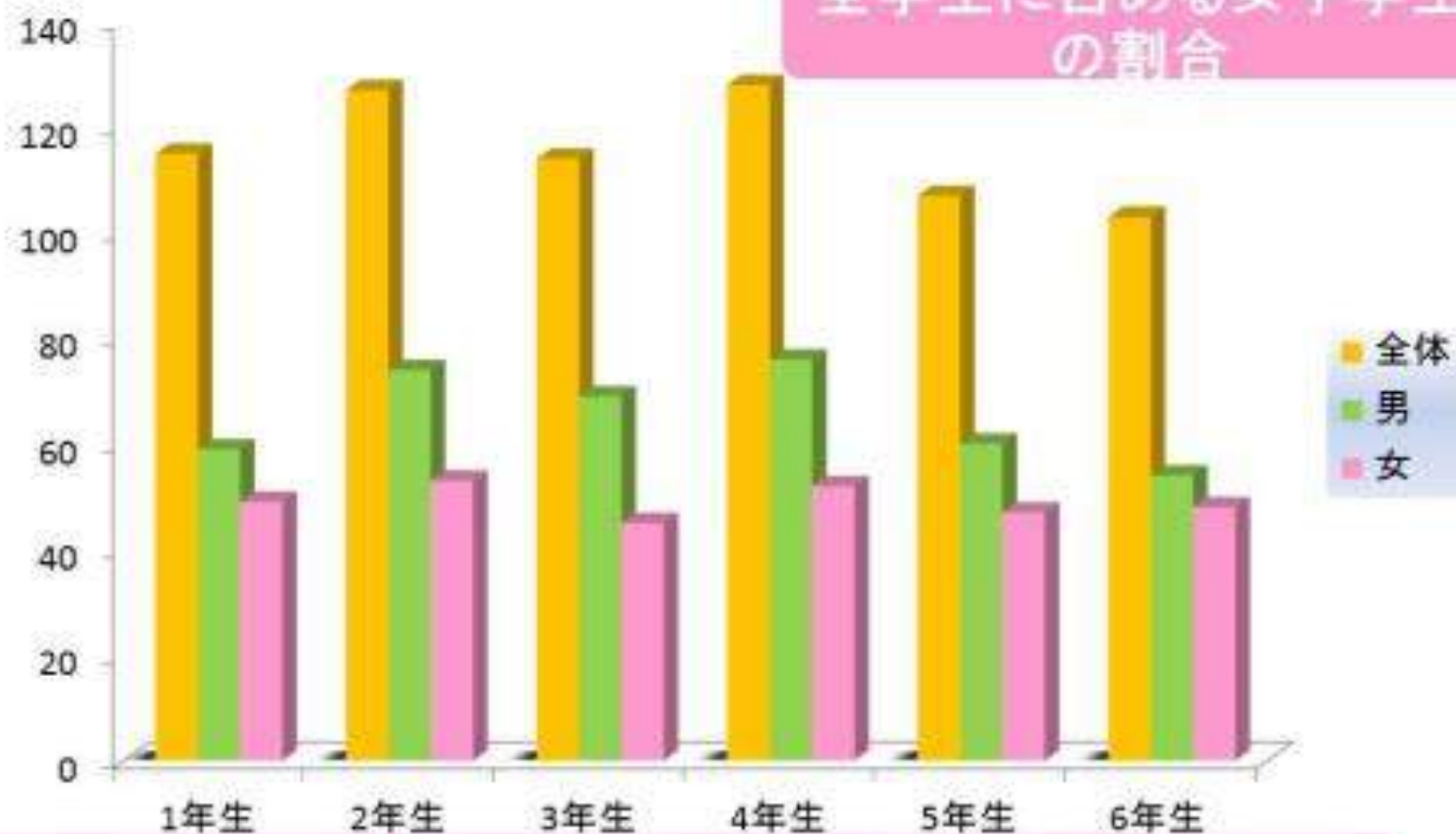
3 男女が共に仕事と子育て・生活を両立できる環境の整備

医師国家試験合格者の男女比



金沢医科大学 学生 男女比

全学生に占める女子学生の割合



42%

41%

39%

40%

43%

46%

新入生に対するワークライフバランス授業

そこで、金沢医科大学では、潜在女性医師の就労支援(M字カーブ)、医療従事者の燃え尽き症候群が、ワークライフバランスの実現により低減できるなど、医学部長の横山先生御指示のもと、第一学年から、ワークライフバランスの講義を行っている。



1. 金沢医科大学における女性医師支援の状況
学生

女性医師支援

2. 石川県女性医師支援について

3. 腎臓内科医の夫を持つ視点

女性医師も男性医師も働きやすい環境づくり

～きらめき女性医療人をつくるために～

日本医師会



石川県
女性医師支援センター

学校法人：金沢医科大学

金沢医科大学北辰同窓会

金沢医科大学
水月会＝北辰同窓会女性部

金沢医科大学集学的医療部
総合診療センター
女性総合外来 水月会女性医師による連携



金沢医科大学
県人会組織



学友会



2015年度金沢医科大学
女医会 第20回 水月会 総会・懇親会

内灘祭実行委員

国試対策委員



金沢医科大学における 医師数全体に占める女性医師数



女性医師の
占める割合
22.9%

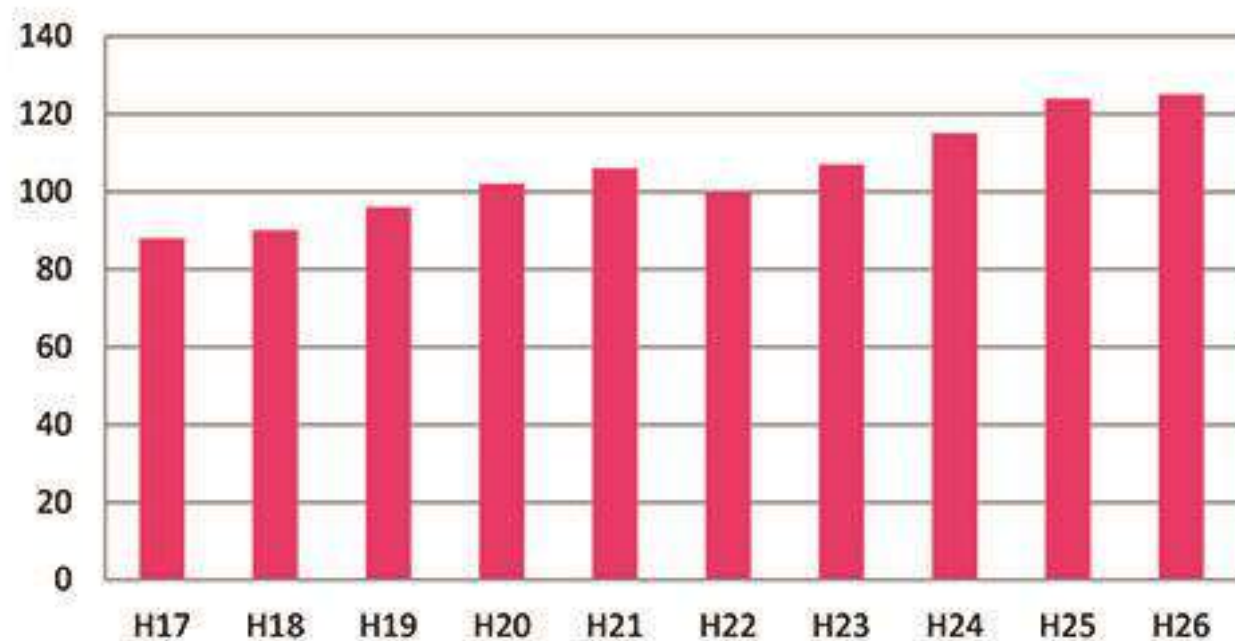
■ 男
■ 女
■ 合計
■

非常勤医師を含む全職員数:527名
男性医師:406名
女性医師:121名

水月会

医局単位ではなく女性同士の左右幅広い関係を樹立、
継続し、女性医師の環境改善を考え、大学へ働きかけ
発会当初（平成6年6月）は55名から
H15年には105名、H27年現在は120名

水月会 会員数

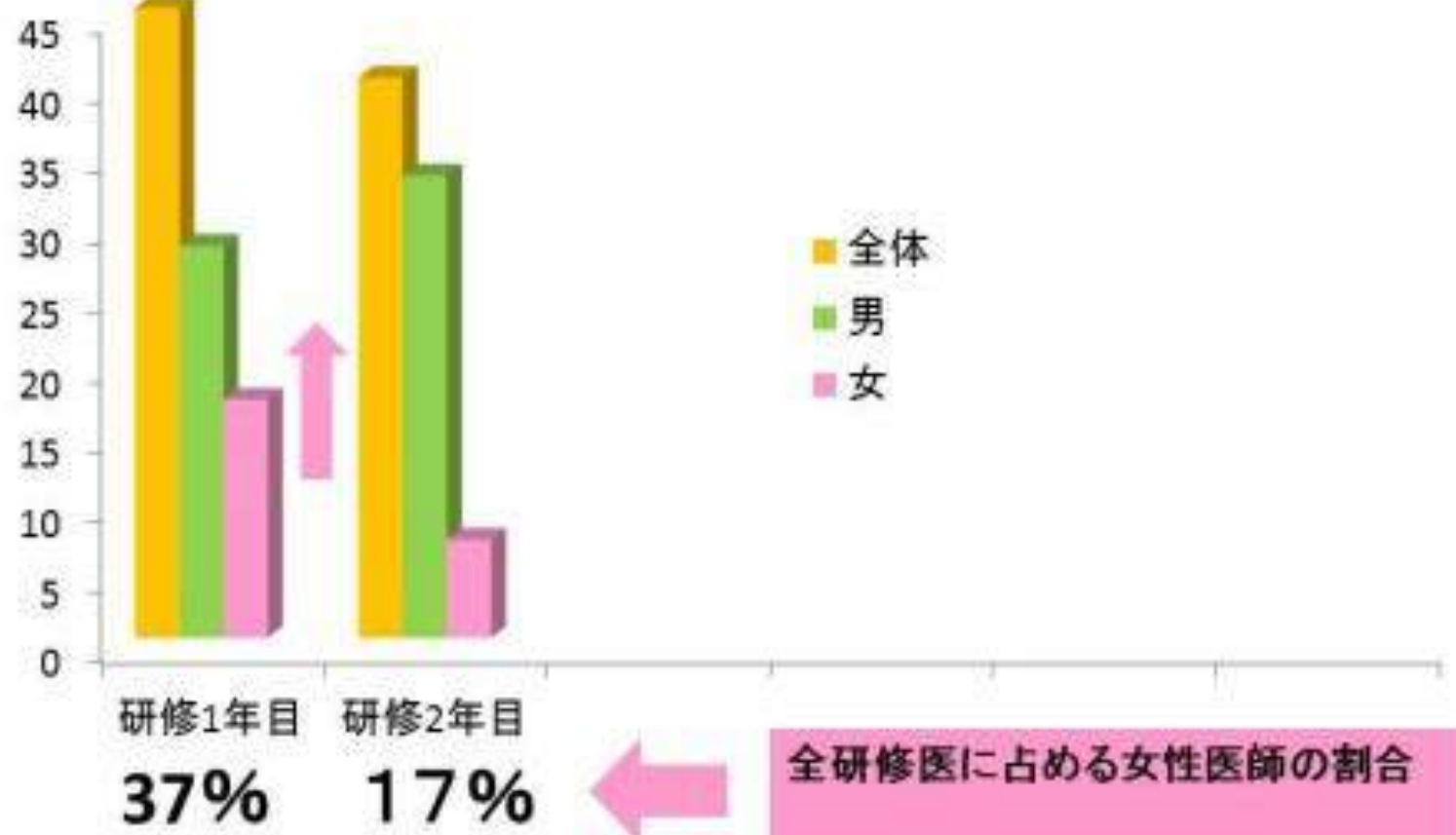


「水月会(みなづきかい)」総会 (2015年6月20日)

毎年6月に行っている親睦会の様子。
女性医師の少ない医局の先生にとっては、先輩女性医師に
色々相談できるとてもよい機会である。
女性は不思議なもので、少し愚痴をいうだけで明日からの仕
事もがんばろうという気持ちになる。



金沢医科大学における2015年度 研修医の推移と男女比



労働環境の改善



水月会で相談されたこと、困っていることなどを
会長が吸い上げて、形にして快適な大学生活が
送れるように大学に働きかけて実現した例。

女医当直室や、シャワー室が完備。



2011年 4月 [内灘はまなす保育園](#)の開設

金沢医科大学 医学教育棟 女性医師 仮眠室
臨床研修センター
女性医師シャワールームなどなど水
会からの要望により
実現！！



3.4.5学年対象 診療科合同説明会（2015年10月1日）



水月会では、学生対象の診療科合同説明会でもブースを設けて、金沢医科大学病院での研修は女性医師にとっても快適で、キャリアアップできるようにサポートされていると説明。出身大学に残って、研修するメリットについて説明。



女性医師も男性医師も働きやすい環境づくり

～きらめき女性医療人をつくるために～

女性医師専用 シャワールーム パウダールーム

女性医師専用仮眠室 ベットルーム

研修医宿舎

病児保育

石川県女性医師支援センター

復職支援事業：総合診療センター 女性総合外来
肝胆膵内科 土島睦教授グループによる
女性医師 消化器内視鏡技術の復職支援事業
相談によりそのほかの診療科

従来の大学病院の臓器別縦割りの診療科に加え
水月会女性医師による斜め横断的なネットワークの作成
研究・診療・相談事業・学外講演会講師派遣など

～金沢医科大学キャリア研修～
女性医師の生き方セミナー&学生と研修医交流会
平成27年3月5日(木)開催(金沢医科大学医学教育棟 6階 大会議室)

- 特別講演「妻、母親、医師としての30年」
金沢医科大学肝胆膵内科臨床教授 土島 睦 先生
- 意見交換会「医科大学病院の現状について」
パネリスト 赤澤 純代 先生 (総合内科)、 柴田奈央子 先生 (眼科)、
関谷奈津子 先生 (産科婦人科)、 藤本 由貴 先生 (呼吸器内科)



女性外来での診療風景

学生さんへの授業・勉強会・研修医への指導

2005年に金沢医科大学では、女性医師による女性外来が始まり女性の不定主訴を中心に診療を行っている。当外来は総合内科に位置しており、夜勤、当直がなく結婚、妊娠、育児と変化する女性医師の大学病院に勤務しながらキャリアを継続できるというメリットも兼ね備え、復職支援として研修も行っている。



集学的医療部 総合診療センター 女性総合外来 の役割の一つ

一般国民への健康啓発活動

石川県 健康推進部との連携

金沢市・金沢医科大学連携事業 女性の健康づくりプロジェクト

金沢医科大学・金沢市協定事業

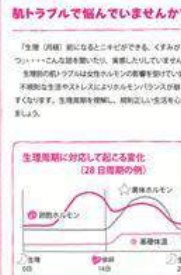
女性の健康プロジェクト



女性の健康ガイドブック



ピコティファルエイジング



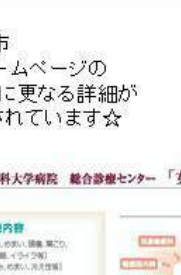
生理周期に関する図表



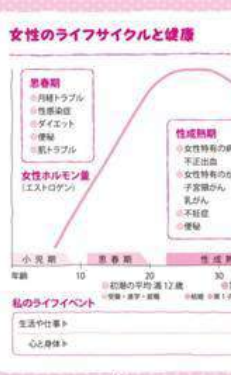
更年期に関する図表



金沢市のホームページのスクリーンショット



金沢医科大学病院 総合診療センター「女性総合外来」



女性のライフサイクルと健康



金沢医科大学病院



集学的医療部



女性総合外来



生理不順



集学的医療部



金沢医科大学病院



集学的医療部



女性総合外来



生理不順



第三回 女性の健康づくりセミナー

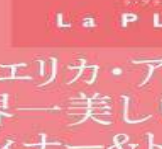


エリカ・アンギェル
カプラー・ブル
La PLAGE



エリカ・アンギェル 「世界一美しいダイエット」 ディナー&トークショー

エリカ・アンギェル×女性医 坂根 Dr.
美のウッセンス! 学んでおいしく体験♪



エリカ・アンギェル プロフィール

元エリカ・アンギェル・ジャパン公式栄養コンサルタント。
1969年オーストラリアのニュー・キャッスル・ユニバーシティで栄養学を専攻し、
ネイチャー・アカデミー・オブ・ニュートリション・オーストラリアの伝統的栄養学会(ATMS)の
会員。1985年に渡米後、1年間の交換留学、伝統的な和食と日本食を学ぶ。2004年に渡米後、エリカ・アンギェル・ジャパン公式栄養
コンサルタントとして数々の美容と健康を目的としたセミナーに「美しくなる食生活」を
指南。栄養学、薬理学、生理学と予防医学における幅広い専門知識を
駆使し、「内臓からより美しく、心も身体もより元気に輝く」をテーマに、ハッピーな毎日のための食とライフスタイルを、愛を込めて発信している。



30分でお手軽な美容食
美容食のレシピ



藤本 由貴先生



唐澤 尚代先生



中澤 東央先生



島崎 知子先生



少崎 智子先生

【開催日】2013年10月6日(日)

【開催地】ホテル日航金沢 30F 「ラ・ブラージュ」
ディナー 18:00～ トーク 19:30～

【料 金】お1人様 ¥15,000(ディナー、フリードリンク、サービス料、税金込)

主催 ホテル日航金沢
後援 北国新聞社 テレビ金沢 北陸放送 金沢シンタクラブ
協賛 ランパンシユ 丸八製菓場 かぶら寿司本舗かばた アブサライ



一瞬一瞬のおもてなし。

ホテル日航金沢
hotelnippon kanazawa

〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1 (現金金沢駅西口) Tel:076-234-1111 Fax:076-234-8802

ホテル日航金沢 検索 www.hnkanazawa.jp

金沢市・金沢医科大学連携事業「女性の健康づくりセミナー」
トークショー
「内側からより美しく、
心も身体も健やかに輝く」
話し手 エリカ・アンギャルさん
元ミスユニバースジャパン公式栄養コンサルタント
聞き手 金沢医科大学 集学的医療部スペシャリストの皆さん

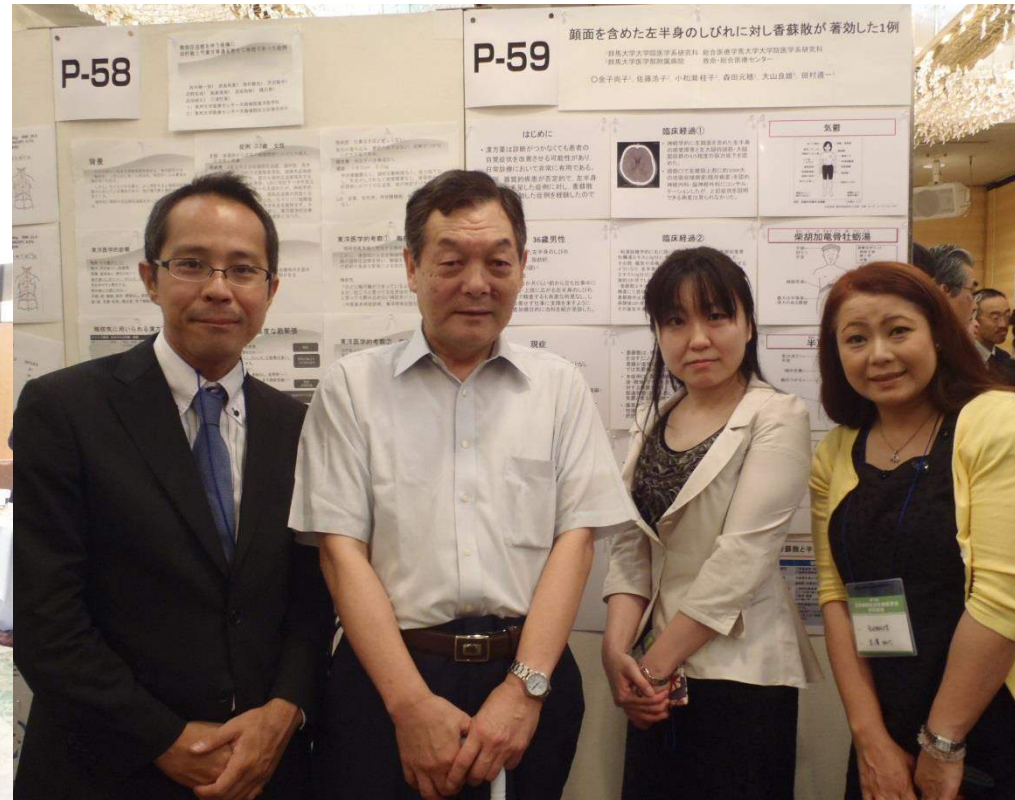


きれいのためのからだづくり
女性特有のがんを学ぼう



学会発表

女性外来の診療で経験した不定愁訴の症例についてまとめ、日本病院総合診療医学会で学会発表を行った。



金沢医科大学病院 呼吸器内科 藤本 由

魚谷委員：次の演題に移らせて頂きたいと思います。

金沢医科大学病院呼吸器内科の藤本由貴先生、よろしくお願いいたします。



藤本先生：金沢医科大学病院の呼吸器内科の藤本と本日はこのような機会を与えて頂きましてありがとうございます。私は取り組みというよりは、一個人の私の経験頂こうと思います。当大学の一例として考えて頂けす。よろしくお願いします。

私は、現在の呼吸器内科の主任教授、今の副学長

生に、「呼吸器内科は臨床も研究も出来るし、とっだよ」ということで誘われて入局しました。私は、臨床研修医制度の前学卒業後2001年に大学院に進学いたしました。当時の大学の研修医は大体大学院に進学しております。呼吸器内科の入局時の同僚は女性で及川理

す。先程、先生の講演にもM6の人達に講演した及川先生です。私の経歴ですが、学位を大学院で取ろうと思ひまして、その時の学位2003年の新幹線事故で話題になった「睡眠時無呼吸症候群」です。睡眠時

査は、今でも一晩技師のアテンドが必要で、患者のみならず、やはり検査担が多いため、覚醒時で睡眠時無呼吸のスクリーニングが出来ないか、と検討したものです。そして学位を取得しまして、当医局では母教授の配慮学院の4年できっちり学位を取得することが出来ています。また、研究は軽減視されていますが、ほとんど臨床のスキルを落とさずに、研究も可

大学院卒業後、臨床研修医の為に京都の音羽病院で半年研修しました。ちの医局では、入局した後にスーパーローテとかは行ってなくて、他のを進められていまして、音羽病院の他は、沖縄中部病院、そういった病院に行った先生もいます。ご存知だと思いますが、洛和会音羽病院の松村先前に米国の臨床医学教育現場で、その研究内容の素晴らしさに胸を打たれしていた舞鶴市民病院で先進的な臨床医学を始めました。研修医教育の為科大学の総合内科教授、いわゆる大リーガー医を招聘し、問診と身体所見を重視した教育を展開しました。大リーガー医による教育システムは、今音羽病院にも受け継がれており、年間数名の内科系の教授を米国から招聘

1. 金沢医科大学における女性医師支援の状況
学生
女性医師支援
2. 石川県女性医師支援について
3. 腎臓内科医の夫を持つ視点

平成26年度 石川県女性医師支援センター 活動内容

メンター（14病院21名）の活動

（1）相談対応

メンターが自ら勤務する病院において、後輩女性医師らの相談・助言を実施するとともに、ニーズを吸い上げてセンターへ報告

（2）座談会等の開催

自院または他院の女性医師を集めて座談会等を開催し、情報交換

（3）情報提供

メンターの体験談、県内の子育て支援情報など、女性医師に有益な情報を提供

女性医師の生き方セミナー 学生と研修医交流会（2015年3月5日）

第一部

肝胆膵内科臨床教授 土島 睦

座長 鈴鹿 有子 『水月会』会長（耳鼻咽喉科教授）

「医師として、母として、妻として歩んだ30年」

日時：平成27年3月5日（木） 18：00～

場所：医学教育棟 6階大会議室

主催：金沢医科大学 『水月会』 ・ 北辰同窓会女性部

共催：石川県女性医師支援センター 石川県医師会





金沢医科大学病院
土島 睦／赤澤純代／藤本由貴
女性医師として働ける、
喜びと試練。



CLOSE UP
気管支内視鏡による
先進的な治療を実施。
福井大学医学部附属病院 呼吸器内科
石塚 全／安斎正樹／本定千知

地域医療最前線
市街地中心部に新病棟誕生！
質の高い診療で地域に密着。
金沢聖霊総合病院
杉本立甫



博文
学附属病院
総合外科の新教授に聞く
て先進的な
斗医を育てたい。



診療においてがん患者を治療。
法のエキスパート集団。
立中央病院 化学療法内科
1広

女性医師に聞く
第5回

金沢医科大学病院

女性医師として働ける、
喜びと試練を糧にして。

医師を志す学生のうち、女性がほぼ半数を占める金沢医科大学病院。女性医師の活躍にスポットを当てるシリーズ。今回は金沢医科大学病院の3人の女性医師に聞きました。

2倍速、3倍速で働く

んと呼び止められることも何度もありました。

平成27年、金沢医科大学では卒業生初の女性教授が誕生しました。肝臓科内科が専門の土島睦教授がその人です。土島教授は、金沢医科大学の女性医師の草分け的存在で、男性中心の職場に勤務しはじめるのは今から30年余り前のこと。

「院内の女性医師は今でこそ100人を超えますが、当時は20人くらい。女性医師の当直室もなく、白衣を着ていても薬剤師や栄養士と区別がつかない。患者さんにお姉さん、お姉さ

土島教授は、もともとの専門は消化器内科。内視鏡や超音波などの機器を使うことから、治療や検査の技術を身につけられる。もう一つは、内視鏡や超音波機器による医療行為は「患者さんが食事を取って受診されるので、遅くとも午前中には終わらせないといいない」が選んだ理由です。研修医時代、すでに結婚して児の母だったことから「万が一、家庭中心になっても、技術があれば医療行為に携われる」と思っていたそうです。



金沢医科大学病院
肝臓科内科学教授
土島 睦 (つしま むつ)

とはいえ仕事と家庭を両立しながら、教授職までのばりつめるのは並大抵ではありません。「女性医師は男性の2倍速、3倍速で働かないと認めてもらえない時代だった」と土島教授は振り返ります。

「医療現場は男性社会。それでも育児をしながら職場で働くことが大切だと思ってきました。働き続けること

(プロフィール)
昭和60年、金沢医科大学医学部卒業。同大学消化器病棟准教授（肝・消化器内科学）助手。助教を経て、平成20年同大学消化器内科学（肝・消化器病棟准教授）臨床准教授。平成25年同大学肝臓科准教授に就任。現在に至る。日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本消化器病学会専門医、指導医、日本内科学会認定教育施設指導医、日本内科学会認定医、日本肝臓学会専門医、指導医、日本カプセル内視鏡学会認定医、指導医、石川県医師会理事、肝臓科医師、腫瘍科医師、医療系大学院共有試験実地評価医

女性医師野生き方セミナー

学生と研修医交流会（2015年3月5日）

第二部 金沢医科大学病院の現状について

（意見交換会 学長・北辰同窓会会長・研修医・学生）

学長：勝田省吾先生 北辰同窓会会長：坂本滋先生

パネリスト

赤澤純代（総合内科）

柴田奈央子（眼科）

閨谷奈津子（産婦人科）

藤本由貴（呼吸器内科）

パネリストとして参加



解がなかなか進まなかった。サスミにとりあげて、現場の女性の声により必要性が少しずつ認知されるようになった」と明かします。働く女性医師に對しても、産休育休などの就労システムも十分ではなく、女性医師はよほどの覚悟がないと出産育児をしながら働き続けるのは難しい」と感じたといいます。そうしたこともあつて、赤澤准教授もまた「水月会に参加し、女性医師の環境改善に必要な意見を吸い上げ、さらに良い提案ができるよう、活動を続けています」。

一人の患者と長く向き合う

土島教授、赤澤准教授の後輩で「女医当直室」も、シャワーもあつて、100人中30人は女性医師」という時代を生きてきたのが、藤本由貴医師です。二人の先輩より、環境的には恵まれた感がありますが、藤本医師は「男女差はあまり関係なくなつたが、馬車馬のように働いた」とい意味では（先輩方と遜色ない）とい切ります。

専門は呼吸器内科。父親が南科医師で開業医。しかし「南科医は二人で診断から治療までを完結しないといけない。将来的にも開業医しかほとんど選択肢がない」とから、チーム医療や臨床研究教育が最終で選んだ。施設も広い医学部を志望します。

「呼吸器内科を選んだのは、慢性的の疾患が多く、同じ患者さんと長くかかわれるから。内視鏡やカテーテル治



金沢医科大学
総合診療センター准教授・女性科外来科
長崎阿部会議員
赤澤 純代（あかざわ じゅん代）

（プロフィール）
金沢医科大学大学院を卒業後、東京大学第三内科研究科を経て、金沢医科大学循環器内科に所属。平成14年3月13日に石川最初の女性外来を開設（現：集学的医療部総合診療センター女性総合外来）。副センター長に就任。平成25年4月、総合内科学専攻に兼任、医学博士。
女性特有の症状に對し患者を導き、総合的な診療を行い、健康サポートを目指す。内科を中心に、日本抗加齢医学会専門医、評議員を務め、NPO女性医師ネットワーク理事、石川県女性医師支援センターコーディネーターなどを務め、女性が元気で働きを持てるようにと、県内外においても女性・男女参画といった社会活動に協力し、環境整備に努めている。



「苦勞して医学部を出たのだから、仕事をしないまま家庭に納まってしまうのは残念なこと。女性にもっと活躍してもらいたいし、そのための場づくりや働きやすい職場をいろいろ提案するのが会の目的です。後輩にもぜひ



土島教授は、当時血液免疫内科特任教授である初代水月会会長広瀬優子と共に、働く女性医師の環境改善や地位の向上をめざして「働く女性医師の会である水月会」の立ち上げにも参加。発足から20年を迎えています。



金沢医科大学病院
呼吸器内科 部長
藤本 由貴（ふじもと ゆき）

（プロフィール）
金沢医科大学大学院を平成12年に卒業後、金沢医科大学呼吸器内科に所属。平成21年より女性総合診療センター（現：集学的医療部総合診療センター女性総合外来）に兼任。
所属学会、資格としては医学博士、日本内科学会呼吸器専門医、呼吸器専門医、結核感染症認定日本病院総合診療医会認定、AAICインストラクターなど。専門分野は呼吸器一般、結核時呼吸器感染症を含む結核一般。女性外来では、呼吸器専門知識を生かし、産後の得られる貴重な医療を目指している。

療と言った機器や器具を使う診療科も考えましたが、手術室の体力を使うし、それが終わって病棟勤務などの仕事をさらにこなすのはとてもハードに思えたんです。検査や内視鏡を使った処置も過度にあるのが私には魅力でした」

それでも研修医時代から「夜目時までは病院に残るように」言われ、ハードな勤務をこなします。「白衣のまま（病院に）荷物を置いて家に帰る。翌朝6時には出勤。同期の女性医師と院内で目を合わせてもお互い忙しくて会話もなかった」。もっとも呼吸器内科の患者は夜中に急変することもあり「現場の医師として急な対応を迫られることも度々だった」とか。しかしそんな時代を経験

したことが、今の藤本医師の大きな支えです。

「呼吸器内科は患者さんの最期を看取することも数多くあります。最期がいいと人の人生が良かたと思えます。疎遠になつてた家族との和解に立ちあうこともあります。そういう時に、医師になつて良かったと思ひを感じます」

これからの女性医師に「今は自分で選べる時代バリバリやるにしろ、過度にやるにしろ、自分で考えた通りにできる。だから思ったようにやればいい」とメッセージします。

それぞれの働き方のなかに、女性医師たちの生き方のヒントがあるような気がします。



す。皆さんには、先輩、後輩がお互いに信頼し合い、助け合い、頼り、頼られ、任す、任せられる良い関係を築いていただきたいと思っています。そして、医師としての仕事、家庭の仕事、どちらか一つを選ぶのではなく、むしろいくつかのことを同時にやることで、ストレス解消、気分転換を図りながら、是非両立をめざして、引き続き教育、研究、臨床に励んでいただきたいと思っています。」

続いて、今年金沢医科大学卒の初年度女性教授に就任した土島隆（肝胆臓内科）新教授が「妻、母親、医師としての30年」と題し、講演しました。講演では、夫となる人を選択すべし、仕事と家庭の両立には「一人で頑張らないこと。妊娠、出産、育児、仕事について自身の経験、体験を交えたユニークなエピソードの数々を紹介し、女性として輝き続けるための心構えをアドバイスしました。講演の後、交流会に移り、先輩、後輩、同僚分け隔てなく、にぎやかな交流が行われました。



女性医師と研修医、学生が交流

国の制定する女性の健康週間中に開催?!

働く女性医師の地位向上や職場環境の改善などを求めて平成6年6月に設立された、金沢医科大学の「水月会」が20周年を迎え、去る3月5日に交流会が開かれました。

全ての女性が輝く人生を送るために。



祝辞を述べる
幹事省吉 金沢医科大学学長



コーディネーターを務める水月会会長
@廣有子（耳鼻咽喉科）教授

病院内の大会議室で行われた交流会には、現役女性医師や研修医、女子医学生らおよそ100人が集まり、キャリア研修を通して親睦を深めました。

水月会の会長である鈴鹿有子（耳鼻咽喉科）教授が「ディナーキー」を務め、設立20年の活動を紹介。講演では、現役女性医師が来賓として挨拶に立ち、働く女性が輝く人生を送るための活動や、日ごろの教育、研究、臨床に敬意と感謝を示し、次のように述べました。

「今年の大学の一般入試では、過去最高の3,393名の志願者がありました。定員が70名で倍率はおよそ48倍。昨年より450人も増えました。うち186人が女性志願者で、皆様の日ごろの活動が、女性の志願者増、女性の人材確保につながっているものと、大変感謝しております。この会では、日頃素晴らしい女性になるために健康を守る対策も講じられており、今後皆さんが歩んでいく人生において大きく役立つものと思います。」





2013年度 北辰同窓会 東京支部会



女性医師支援は、金沢医科大学の同窓会でもバックアップしていただいている。



ワークライフバランスセミナー (2014年10月25日)

参加者：独身男性 18名（平均年齢33.7歳）

独身女性医師 13名（平均年齢38.5歳）

第1部 講演「結婚と女性医師のキャリア継続」

NPO法人ファザーリング・ジャパン

事務局長 徳倉 康之 氏

第2部 交流会（女医の婚活交流会）



第5回女性医師生き方セミナー (2015年3月21日)

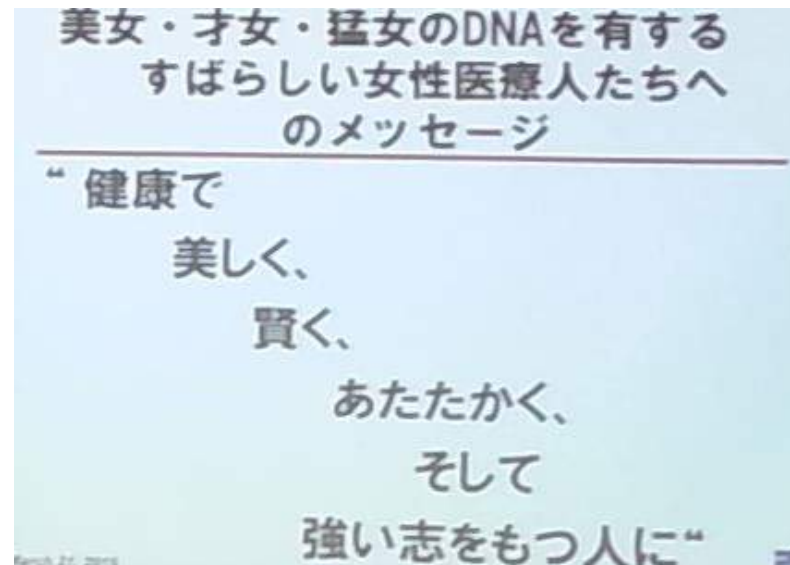
第1部 講演

輝いて、美しくー医の神アスクレピオスの娘たちへのメッセージ

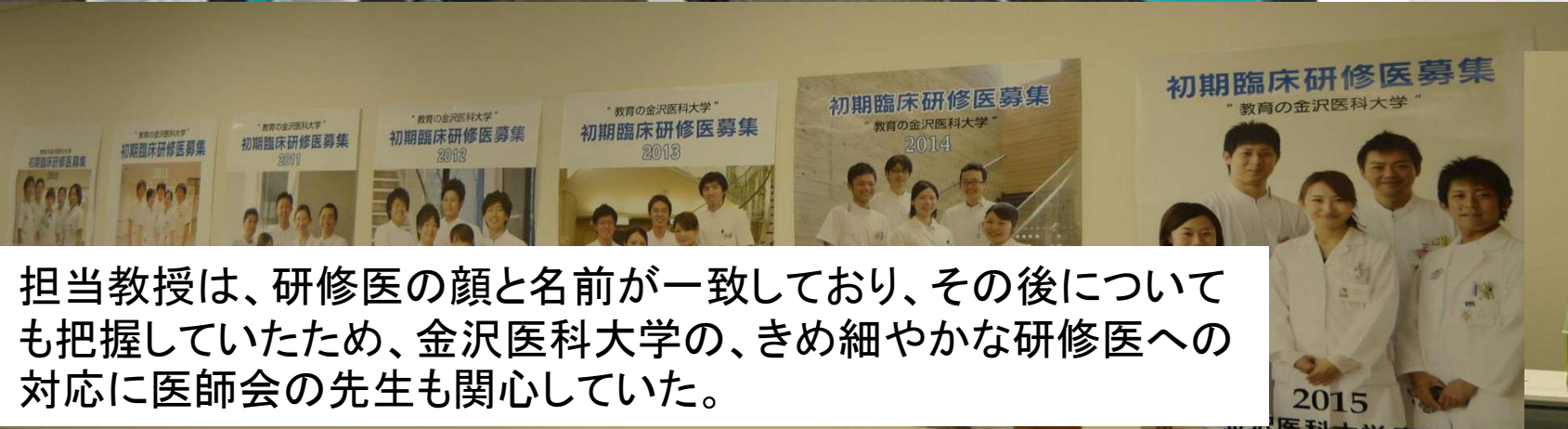
学校法人福岡学園常務理事、九州大学名誉教授

水田 祥代 先生

第2部 グループディスカッション



石川県医師会
石川県女性医師支援センター
大学病院研修医担当教授との
意見 交換会



担当教授は、研修医の顔と名前が一致しており、その後についても把握していたため、金沢医科大学の、きめ細やかな研修医への対応に医師会の先生も関心していた。

女性医師勤務状況調査報告

(2015年4月1日現在)

石川県14病院（女性医師メンター配置病院）

女性医師数：335名（総医師数：2,252名） 13%

常勤312名（勤務制限なし 285名 勤務制限あり 27名）

非常勤 23名

勤務制限ありの一番多い年代は30代（16名）

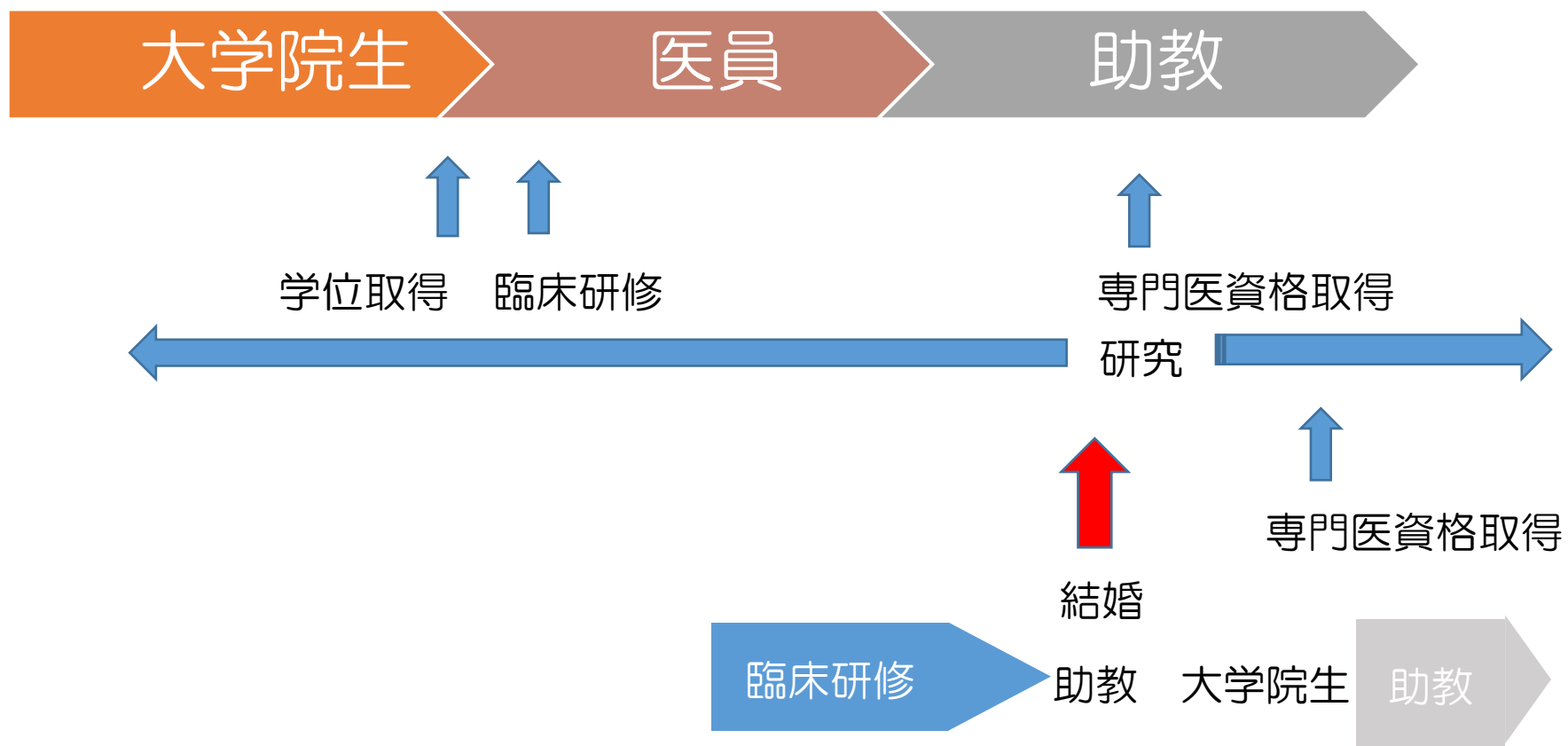
診療科別：1位 内科（97名）

2位麻酔科（32名）

3位放射線科（26名）

1. 金沢医科大学における女性医師支援の状況
学生
女性医師支援
2. 石川県女性医師支援について
3. 腎臓内科医の夫を持つ視点

藤本家のライフワークバランス



メリット

呼吸器内科→腎臓内科

酸塩基平衡・電解質異常について気軽に問い合わせ

ANCA関連血管炎を相互に診察可能

敗血症に対するPMX-DHP依頼

腎臓内科→呼吸器内科

睡眠時無呼吸症候群の検査、治療がスムーズ

挿管・人工呼吸器管理依頼

免疫抑制患者の呼吸器感染症（ニューモシスチス肺炎、CMV肺炎、重症RSV肺炎）

学会発表



一般演題【症例報告 13 感染症・腎臓】

座長：国立病院機構 九州医療センター 総合診療部 岸原康浩
奈良県立医科大学附属病院中央臨床検査部 水野麗子

9月5日(土) 9:00～10:00

第3会場(会議室3・4)

- O-131 前立腺膿瘍と腸腰筋膿瘍を合併した急性前立腺炎の一例
¹ 国立病院機構 九州医療センター 救命救急科、
² 国立病院機構 九州医療センター 総合診療科
○佐藤友紀¹、小村聡一郎¹、井上寛子¹、小林良三¹、田代浩平²、岸原康浩²
- O-132 生来健康な男性に発熱、急性関節炎にて発症した肺炎球菌性菌血症の一例
東海大学 医学部 内科学系総合内科
○大岩一平、柳 秀高、宮坂晋太郎、伊藤佳寿子、上田晃弘、小澤秀樹、高木敦司
- O-133 インフルエンザ流行期に経験した重症感染症の2例
札幌徳洲会病院救急総合診療科
○西條正二、若井俊明、武田慧太郎、中川 麗、田邊 康
- O-134 不定愁訴で女性外来を受診し、Gitelman 症候群と診断された一例
¹ 金沢医科大学病院総合診療センター、² 金沢医科大学呼吸器内科、³ 金沢医科大学腎臓内科、
⁴ 金沢医科大学遺伝子医療センター
○藤本由貴^{1,2}、藤本圭司³、守屋純二¹、上西博章¹、山川淳一¹、赤澤純代¹、中西由美子¹、
鈴鹿有子¹、横山 仁³、榎 博久²、小林淳二¹、新井田要⁴

研究活動

金沢医科大学北辰同窓会 研究助成金 表彰式 平成26年度

題名：研究テーマ

「女性外来受診者における閉塞性睡眠 時無呼吸症候群の罹病率と背景因子、治療効果に関する検討」

推薦者：呼吸器内科学 梶 博久 教授



今後の目標

- それぞれの経験を活かし、共同で臨床研究を立ち上げる

例：女性外来の不定愁訴患者に占める酸塩基平衡・電解質異常の有病割合（女性外来⇔腎臓内科）

- 夫婦ともに働き続ける（男女共働参画）